

2014年12月号

12月15日(月)発行

釧路湿原国立公園

温根内ビジターセンター

月刊 **温根内通信** No. 219



ふゆのはじまり…

朝晩の冷え込みが本格化し、最低気温がマイナス 10℃を下回る日も多くなりました。湿原の表面は凍り始め、まもなく雪で閉ざされます。小鳥たちは群れで餌を探し、植物たちは休眠状態でしのぎます。湿原のいきもたちの、それぞれの春を待つ工夫を知ると、静かで何もないように見える湿原の中から隠れた声や音が聞こえてくるようです。

☆☆☆温根内ビジターセンター 探勝木道周辺の自然情報☆☆☆



～温根内探勝木道周辺の自然～



【タヌキモ】
タヌキモ科 狸藻
ふさふさしていたタヌキモの葉は1cmほどの越冬芽になり、厚い氷の下で冬を越し、暖くなるのをじっと待っています。



【クロミノウグイスカグラ】
スイカズラ科 黒実鶯神楽
冬芽が縦に並び、春になると下方の大きな冬芽が育ちます。他の芽は予備のようなもので、大きい芽が育たない時に伸び始めます。



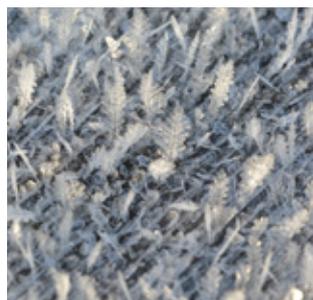
【エソイラクサ】
イラクサ科 蝦夷刺草
枯れたエソイラクサの根元の落ち葉をどかしてみると青々とした小さな芽が出ています。このまま冬を越え、暖かくなると伸び始めます。



【ケヤマハンノキ】
カバノキ科 毛山榛
湿原周辺の日当たりの良い場所で見られるケヤマハンノキは、花芽(雄花と雌花)と葉芽の違いが良く分かる冬芽を付けています。



【やちぼうず】 谷地坊主
カヤツリグサ科 カブスゲ
夏の間は周り自身も繁茂していたので姿が見えませんでした。秋が深まり、草が枯れてようやく姿が見られるようになりました。



【フロストフラワー】
よく冷えた日の朝、木道にはびっしりと霜の花が咲きます。よく見ると花というよりも、針葉樹のような形をしていて、小さなクリスマスツリーのようです。

○表紙の写真 上: タンチョウの親子 中右: エソシカ 中左: エナガ 下: エソニワトコの冬芽

～温根内探勝木道周辺の野鳥～

木道周辺では冬鳥を目にする機会が多くなりました。冬の使者オオワシも上空で悠々と旋回しています。ビジターセンターでは無料で双眼鏡を貸し出ししています。お気軽にご利用ください。



【エナガ】

エナガ科 柄長 留鳥

冬はビジターセンター周辺を群れで移動しています。北海道は白い顔が可愛い亜種シマエナガです。「ジュレ…」という声が聞こえたら探してみよう。



【シメ】

アトリ科 鶺鴒 夏鳥(一部越冬)

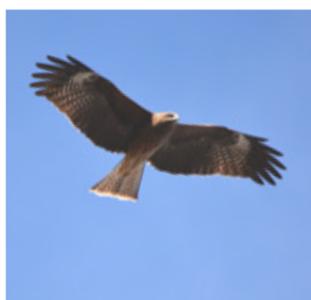
北海道では夏鳥ですが、ここでは冬によく見られます。太い嘴と目の周りの黒で悪人顔に見えますが、むっちりとした体型が愛らしい憎めない鳥です。



【ノスリ】

タカ科 鷹 留鳥

鶴居軌道跡の見晴らしの良い樹上や湿原上空を旋回する姿が見られます。白っぽい下面と胸の茶色い模様が特徴です。



【トビ】

鷹 タカ科 留鳥

尾羽の形が三味線のバチのような形をしているので他のタカ科と簡単に区別できます。ひらひらと湿原上空を器用に飛び回っています。

○温根内探勝木道周辺で観察された鳥（11月15日～12月14日）※和名は日本鳥類目録第7版の順
 ■オオハクチョウ■アオサギ■タンチョウ■トビ■オジロワシ■オオワシ■ノスリ■フクロウ■コゲラ■アカゲラ■ハシボソガラス■ハシブトガラス■ワタリガラス■ハシブトガラ■シジュウカラ■ヒヨドリ■エナガ■ゴジュウカラ■キバシリ■ミソサザイ■ツグミ■セグロセキレイ■アトリ■マヒワ■ベニヒワ■シメ■アオジ

☆☆コラム「温根内のエゾシカ ～人気者？それとも厄介者？～②」☆☆

温根内ビジターセンター指導員 本藤泰朗

温根内木道周辺は国立公園第一種特別地域で、国指定鳥獣保護区に隣接しています。木道や鶴居軌道跡からは発砲できませんし、人がいる可能性が高いので事実上禁猟です。ここではエゾシカを含めた野生動物の生息環境は守られていて、一年中姿を見ることができます。エゾシカも危険が無いと知っているのか、かなり近くに寄っても逃げずに、こちらをじっと見つめています。その姿がとても愛らしく（実際には警戒してこちらを見ている）、訪れる観光客は大喜びです。あまりにも警戒心が薄いので、ためしに石を投げてみると…なんと、当たりました。それほど温根内では安心して過ごしているようです。

温根内を離れ湿原から離れると、可猟区域になるので、狩猟期間中エゾシカたちは可猟区域から逃れ、湿原に集まります。また湿原内は雪が風で吹き飛ばされ、植物が露出している場所も多く、食べ物にありつけるのも集まる要因の一つでしょう。

右の写真は温根内周辺のミズゴケ湿原の航空写真を1977年と2012年を同じ場所で比べたものです。

2012年の写真には縦横無尽にたくさんの線を確認

することができます。この線は先月号で少し触れた「シカ道」です。湿原内は水浸しで、あちこちに「やちまなこ」の様な深い水たまりがあるので、これを避けるためにエゾシカたちは安全で歩きやすいところを選び、繰り返し同じところを歩くので、湿原内にこのような「道」ができあがります。これを見るだけでもこの周辺のエゾシカが以前と比べて増えていることがよく分かります。

かくして冬の狩猟から逃れたエゾシカたちは、夏には食べ物豊富な湿原とその周辺で安心して子育てを行い、観光客の人気者になり、温根内で幸せに暮らしたとさ、めでたしめでたし。…となれば良いのですが、どうもそうはならないようです。（来月号へ続く）

～ミズゴケ湿原の昔と今～



国土地理院

環境省

☆☆☆☆自然ふれあい行事が開催されました☆☆☆☆



○「リースを作ろう」11月30日 参加者12名
リース創作研究科の甲斐美弥子氏を講師に、クリスマスリースを作るイベントを開催しました。

事前に準備した手作りの土台に、様々な大きさの松ぼっくりや木の
実、オーナメント、リボンなどで飾り付けをしてクリスマスを演出す
るオリジナルリース作りを楽しみました。講師の甲斐氏からは、リ
ボンや飾り付けの色の組み合わせのコツや、メリハリの効いた飾り
付けの方法、材料の使い方のアイデアなどのアドバイスがあり、参
加者は思い思いの個性的なオリジナルリースを作成しました。



○「初冬の湿原ハイク」12月7日 参加者18名
植物の専門家の高嶋八千代氏を講師に、全てが枯れているよ
うに見える湿原やその周辺で、どのようにして植物は厳しい
冬を乗り越えているのかをテーマに観察会を行いました。

室内で冬芽の説明と越冬の仕組みの話を聞いてから外に移動
し、ヤチダモの冬芽やハンゴンソウの冬芽、タヌキモの越冬芽、
ハンノキの花芽、オオバタネツケバナの葉など、それぞれの
植物の特徴のある冬ならではの姿を観察し、寒い冬を乗り切
るために植物が身につけた「作戦」をじっくりと観察しました。

☆☆☆☆イベントのご案内（1月）事前の申し込みが必要です☆☆☆☆

○温根内ビジターセンター ⇒お申し込み☎0154-65-2323

♪厳冬の湿原ハイク

〔日時〕1月18日（日）10:00～12:00 〔定員〕15名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕無料

〔場所〕温根内ビジターセンター

冬の湿原はどうなっているんだろう？厳冬期の湿原で動物の痕跡などを観察します。

○塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）⇒お申し込み☎015-487-3003

♪連凧を作って揚げよう

〔日時〕1月10日（土）10:00～12:00 〔定員〕15名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕100円（材料費）

〔場所〕塘路湖エコミュージアムセンター

手作りの連凧を広々した塘路湖畔で気持ちよく揚げよう！

～年末年始休館日のお知らせ～



本年も大変お世話になりました。来年も
よろしくお願いたします。

年末年始休館日

12月29日（月）～1月3日（土）

月刊 温根内通信 No.219

発行：釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

〒085-0036 北海道阿寒郡鶴居村字温根内

Tel: 0154-65-2323 Fax: 0154-65-2185

E-mail: ovc@hokkai.or.jp

ホームページ: <http://city.hokkai.or.jp/~kkr946/>

Facebook: <https://www.facebook.com/Onnenai.VC>

開館時間: 10:00～16:00(4月～10月は17:00まで)

休館日: 毎週火曜日(12/29～1/3は休館) 入館無料